

臨床倫理委員会議事録

日 時：令和 7 年 7 月 2 8 日（月）（1 6 時 3 0 分～1 7 時 0 分）

場 所：第一会議室

出席者

委員長：統括診療部長

委 員：地域医療・情報部長、病棟部長、外来部長、薬剤部長、看護部長、
事務部長、企画課長、経営企画室長

オブザーバー：院長、副院長

事務局：管理課長、庶務班長

【審議議題 1】

フロベン細粒（川崎病適応）の製造中止に伴うフロベン錠粉碎使用可否の確認
（申請者：小児科医長）

川崎病の患者は年間、15-20 件程度入院し、血栓防止の目的でアスピリンを使用しているが、肝機能異常がある場合、アスピリン内服ではなくフロベン内服がガイドライン上、推奨されている。

今回、フロベン細粒が製造中止となったため、フロベン錠剤を粉砕して使用することについての可否を申請する。

・つぶしているのを見たことはないが、使ったとしても子どもが飲みづらいことが起こることはないと思う。

※一同異議なし 承認とする

【審議議題 2】

乳幼児喘息発作時の計量安全性向上のためのソル・メドロール溶解液変更の
提案（申請者：小児科医長）

小児科の喘息発作患者に対して、体重に合わせてソル・メドロール 125m g を使用しているが、乳幼児に合わせた量の調整が難しく、今回、計量でインシデントが発生してしまったため、生食 10m l での溶解に変更したく、審査をお願いする。

なお、ソル・メドロールの別規格 40m g もあるが、こちらは乳糖を含むため、

牛乳アレルギーを合併する喘息患者には不向きであり、採用できない。

- ・ファイザーの説明書では、投与後 24 時間経過した状態は注射液でも、生食でも変わらないと書いてある。
- ・不純物、化成分解の影響で、生食自体の規格の変動が大きく、酸性側に若干傾いているため、白濁する可能性があり、白濁の状態を確認する必要がある。
- ・注射液と糖液では注射液の方が安全性は高い。
- ・薬剤部が間違えない方法が良く、セット処方でオーダーされる際に「溶解不要」と入れていただければと思う。

※一同異議なし 承認とする

【審議議題 3】

経尿道的水蒸気治療（K841-7）の新規術式（申請者：泌尿器科医長）

前立腺肥大症に対する経尿道的水蒸気治療の新規術式申請になる。

従来の手術では、全身状態不良で合併症リスクが高い患者や認知機能障害でせん妄のある患者は困難なため行えていなかったが、今回申請する術式により可能になり、新規患者の開拓にもつながる。

手術点数は従来の点数 20,470 点に対して、12,300 点と点数が低いが、2 泊 3 日の短期入院が可能である。また、ディスプレイザブル物品は 388,000 円の償還価格がついており、保険請求も可能である。

ただし、治療効果については従来の手術と比べて低い。手術時間は 10 分程度で完了し、短期間で入院可能なことで身体的な負担が軽いことを含めて、新規の患者開拓に努めたい。

※一同異議なし 承認とする

【審議議題 4】

国内未承認治療用アレルゲンエキス（米国 ALK Abello 社製）を用いたアレルゲン免疫療法（公益財団法人日本アレルギー協会抗原研究会経由）

（申請者：臨床研究推進部）

公益財団法人日本アレルギー抗原研究会を介して購入した国内未承認の治療用アレルゲンエキス、診断用アレルゲンエキスを用いたアレルゲン免疫療法を申請します。

※一同異議なし 承認とする

以 上